

医療、福祉業

調査結果：医療、福祉業（国内の現状、課題、将来像、取組事例）

日本標準産業分類を基準とし区別しております。

現状

- 急速な少子高齢化の到来
- 団塊の世代が全て75歳以上となり、超高齢化社会を迎える
- 社会保障給付費の増大

※「厚生労働省 等」参照

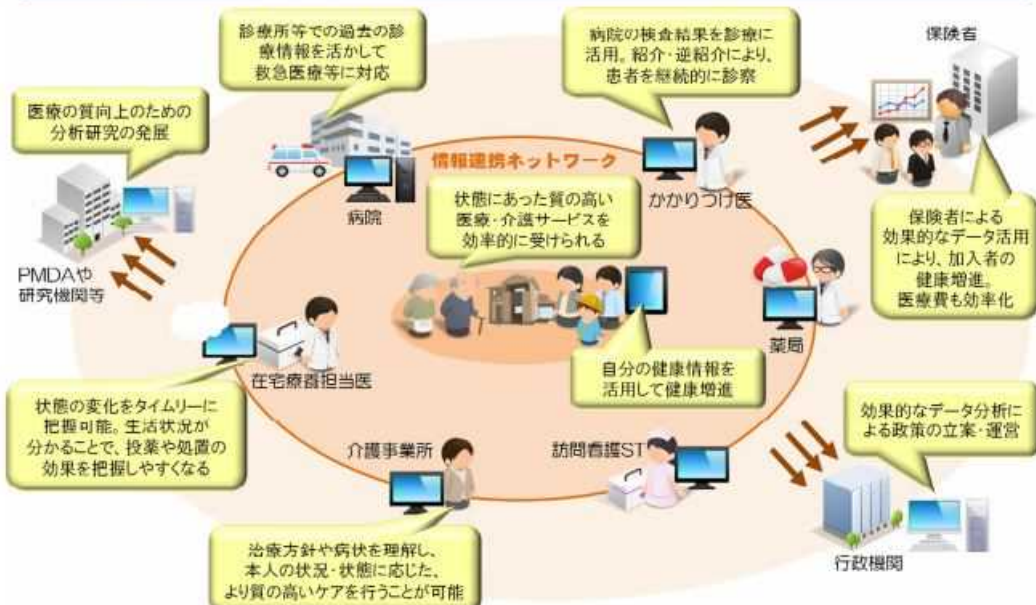
将来像

<医療等分野におけるICT化の目指すべき将来像>

- ICT を活用した医療機関間や医療機関と介護事業所との間の情報共有
- ICT を活用した情報分析等に基づく効果的な保健事業の実現
- 社会保険制度を基盤とするビッグデータの効果的・効率的な活用
- 医療情報の番号制度の導入と分野横断的な情報利活用

医療等分野のICT化が目指す将来像のイメージ

医療・介護サービスの質の向上と持続可能な社会保障制度の確保を目指したICT利活用



※「厚生労働省_健康・医療・介護分野におけるICT化の推進について(2014年)」参照

課題

- 安全で質の高い医療を切れ目なく効率的に提供する体制の確立
 - 地域を支える医療体制の構築
 - 救急・災害医療体制の整備
 - 医療従事者の養成・確保
 - 医療と福祉が連携した在宅医療・介護体制の整備
 - 医薬品等の安全確保・安定供給の推進

※「宮崎県_第7次宮崎県医療計画の概要(2020年)」参照

国内の取組事例

岩手県周産期医療情報ネットワークシステム「いーはとーぶ」

ICT

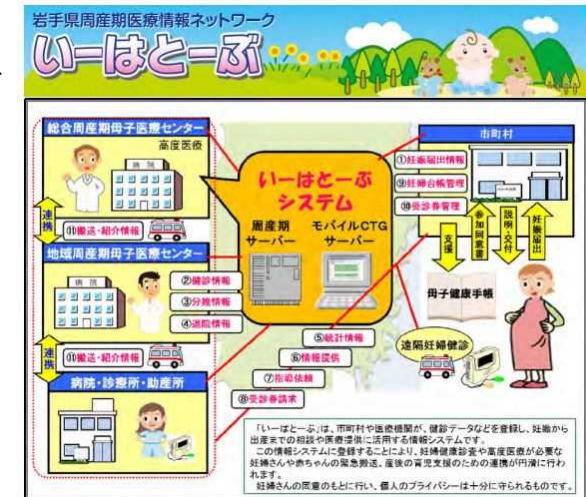
概要

安全・安心な妊娠・出産・育児のために、岩手県内の医療機関や市町村などの間をインターネット回線で結び、妊産婦の健診情報や診療情報を共有して、保健・医療関係者の綿密な連携を実現する。

期待される導入効果

- 高度医療の必要な妊産婦、胎児、新生児の紹介や健診経過の情報共有が可能
- 妊産婦、新生児に対する早期の保健指導が実現し、効果的な妊娠・育児支援が推進
- 妊婦健診受診票の発行や台帳管理等が可能、ハイリスク妊産婦や産後メンタルヘルスの速やかな把握と支援が可能
- 周産期医療や妊産婦の保健統計情報が蓄積、周産期医療の質の向上

※「一般財団法人全国地域情報化推進協会 ICT利活用事例集(2020年)」参照



県内取組事例

宮崎県内の取組事例を紹介します。

(1) 病院向け電子カルテシステム

ICT



診療における新たな気付き、ICTによる医療業務改善。

事業者：L社
立ち位置：ベンダー

取組概要：
独自の電子カルテシステム（Man・go）の開発～保守。

<主な取組み>

① **パソコンでもスマホでも操作可能**

声と手書きの、わかりやすく丁寧な解説動画で英語をインプット。

② **反応速度が落ちない。**

同時アクセスの増加や10年20年経って情報量が増えても、速いレスポンスで画面展開が可能。

③ **安心サポート**

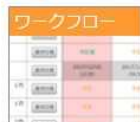
24時間365日お電話・メールにてサポート。

（システムに関する質問や操作方法など）

④ **充実した機能**



アラート機能
アラート機能が医師にタイムリーな気付きを与え、安全安心な医療を実現します。



ワークフロー
ワークフロー機能によって加算や管理料等の対象患者様を自動で抽出し、オーダや文書といった診療行為を一連のものとして提示し、未実施にはタイムリーにアラートを出します。これにより、さまざまな加算・指導料等を確実に算定していきます。



オーバービュー
時系列で表示する画面を1つにまとめました。患者情報を俯瞰的に把握するのに威力を発揮し、診療の効率を飛躍的に向上させます。



スタンプ機能
よく使う情報を雛形として登録でき、簡単にオーバービューや文書にドラッグ&ドロップできます。



ビュー切替
画面の組み合わせを職種や業務に合わせて切替えることができます。例えば、循環器の医師の外来に最適な画面構成を登録することにより、必要な情報に素早くアクセスできます。



ワークシート
カルテMan・Goのワークシートは、様々な条件で複数の患者様を一覧表示する機能です。診療行為や病名等様々な条件でデータを抽出し、必要な項目だけを選択して一覧を作ることができます。統計も出せます。



メッセージ機能
多種類のコミュニケーションや、ワークフロー、アラート機能による自動メッセージを表示します。



経過記録/各種文書
経過記録（2号紙）の過去分をロール式に表示します。ロール式なので、同時に幾つもの記録を表示できます。スマホで撮った画像を簡単に貼り付けることができます。よく使う言葉は文字スタンプとして登録できます。



マルチビュー画面
生理検査や部門の報告書、診断書類等を表示します。ボタン「>」「<」をクリックすれば、素早くページ移動します。ユーザー毎に表示する情報種別をいくつも登録でき、簡単に切り替えることができます。

取組を始めた背景：

病院の働き方改革に寄与出来たらという思いで開発を実施。

効果（成果）と今後の課題：

訪問診療の際、出先でも患者のカルテの閲覧及び作成が可能になるため、作業効率は格段に向上したとの声があがった。

一方、県内企業の資金不足も大きな課題であると感じている。興味を持たれても、資金不足のため、導入されない企業も多数ある。

県内取組事例

宮崎県内の取組事例を紹介します。

(2) ネムリスキャン（センサーマット）とAI自動運転車いすシステムの試験導入

AI

IoT



医療、福祉業における最先端ICT導入事例

事業者：M社
立ち位置：ユーザー

取組概要：

M社は、全国でも例をみないICTを積極的に試験導入している。

① ネムリスキャン

センサーマットで、入居者の脈拍や呼吸を感知し、転落防止や認知症の方へのフォローに活用。

② AI自動運転車いすシステム

久留米工業大学との協働で本年度より運用を開始したシステム。脳波を検知し自動で車いすを運行。※テスト段階



取組を始めた背景：

「ネムリスキャン」：グループホーム開設（認知症用）と共に導入した。

「AI自動車いすシステム」：以前より宮崎県内の大学と強度で脳波を使った介護システムについて、研究していたところ、久留米工業大学がそこ着目し、AI自動車いすシステムについてのお話があった。AI自動車いすシステムは製品化されているわけではなく、あくまでもテスト段階である。

効果（成果）と今後の課題：

ネムリスキャンについては、入居者へのサービス向上を肌で実感している。

一方、AI自動運転車いすシステムについては、正常な動作をしないなどの不具合も多いが、課題をひとつひとつ解決し、本格運用に向けて進めていきたい。

県内取組事例

宮崎県内の取組事例を紹介します。

(3) 日之影町と連携協定を結んだことにより、高齢者のための「見守りサービス」を展開。



自治体と連携した取り組み

事業者：N社
立ち位置：ベンダー

取組概要：
2019年に日之影町と連携協定を結び、高齢者宅に人感センサーを取り付け行動パターンから異常を検知する「見守りサービス」を展開している。

取組を始めた背景：
日之影町のICTを利活用を促進したい分野と、N社が提供できるサービスとが合致し、連携協定を結ぶ運びとなった。

効果（成果）と今後の課題：
導入前は社会福祉協議会の職員が1件1件巡回し安否を確認していたが、今は動作がないといった異常を検知した場合に職員に連絡する体制を取っているため、作業工数の大幅な削減に寄与出来ている。また、常に見守ってくれている存在がいるという安心感も大きいという声も上がってきている。今後はシステム拡大に向け、取り組んで参りたい。

